

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽 I	単位数	2 単位
区分	選択必修	配当年次	2 年次

1 科目の目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を育成することを目指す。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
評価の観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解を深めている。 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したものと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価基準	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況	a: 十分満足できる状況 b: おおむね満足できる状況 c: 努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能（知）	思考・判断・表現（思）	主体的に学習に取り組む態度（態）
<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況の観察 ・ ワークシートの記述 ・ 歌唱・演奏の聴き取り ・ 実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習状況の観察 ・ ワークシートの記述 ・ 歌唱・演奏の聴き取り ・ 実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 演奏練習の観察 ・ ワークシートの記述 ・ 歌唱・演奏の聴き取り

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	時数
前 期	4月	①楽典、楽譜の仕組み（年間を通じて） 楽譜を見て歌唱・演奏することに慣れ、読譜力をつける ②歌唱（年間を通じて） 様々なジャンルの曲を歌い、表現を工夫する ③器楽演奏（ギターアンサンブル）	15
	5月		
	6月	①器楽演奏（ウクレレ弾き語り） ②鑑賞	15
	7月	日本の和楽器や音楽に親しむ	
	8月	①器楽演奏（三線） ②鑑賞	16
後 期	9月	歌舞伎の特徴を理解し、文化的・歴史的 背景に関心を持つ	
	10月	①器楽演奏（ハンドベル）	16
	11月	②器楽演奏（キーボード）	
	12月	①器楽演奏（ハンドベル）	16
	1月	②器楽演奏（ギター弾き語り）	
	2月	③鑑賞 西洋音楽の楽曲の歴史的背景や作曲家の生涯について学ぶ	16
3月			

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

- ・ 授業で使用する資料・楽譜等は、その都度配布します。
- ・ 授業に出席し、主体的な音楽表現や授業態度を望みます。
- ・ 取り組みの姿勢、表現力、課題の到達、理解度を総合的に判断します。

6 教科書・副教材

教育出版 音楽 I T u t t i +

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道 I (R7は未開講)	単位数	2 単位
区分	選択必修	配当年次	2 年次

1 科目の目標

<p>基礎的な書写能力を養うとともに、書の表現や鑑賞を理解する。</p> <p>①古典を学習を通して基礎的な用筆や鑑賞能力を身につけよう。</p> <p>②感性豊かに自分の個性を生かした創造的な表現を楽しく展開しよう。</p>

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能 (知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	<ul style="list-style-type: none"> ・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> ・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>	<p>a: 十分満足できる状況</p> <p>b: おおむね満足できる状況</p> <p>c: 努力を要する状況</p>

3 評価方法と評価の場面

知識・技能 (知)	思考・判断・表現 (思)	主体的に学習に取り組む態度 (態)
<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ プリント (ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・ 観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品 ・ プリント (ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・ 観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎時の準備片付け ・ 作品 ・ プリント (ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・ 出席 ・ 観察

4 年間指導計画

学 習 の 内 容			時 数
前期	4月	書写から書道へ(用具用材の理解)	15
	5月	篆書・篆刻	
	6月	隸書	15
	7月	草書	
	8月	行書 細字	16
9月	楷書(唐の四大家・北魏の楷書)		
後期	10月	くれき野祭創作	16
	11月	漢字の書 創作 刻字	
	12月	仮名 成り立ちと用筆	16
	1月	漢字仮名交じりの書	
	2月	漢字仮名交じりの書	
3月	漢字仮名交じりの書		

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

<p>「書道 I」・「音楽 I」の2科目から選択必修。</p> <p>教科書及び学習プリントにより、実技を中心に授業をすすめ、各課題で作品を制作する。</p>

6 教科書・副教材

書道 I (東京書籍)

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	書道Ⅱ	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	3年次

1 科目の目標

書道Ⅰを踏まえて、芸術的表現に挑戦し、鑑賞力を養う。
 ①古典臨書を通して様々な書体に親しむとともに、それぞれの基本を身につけよう。
 ②個性的な表現を鑑賞しながら、自らも創作に挑戦しよう。

2 科目の評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	・書の表現の方法や形式、多様性などについての理解。 ・書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。	・書のよさや美しさの感受。 ・意図に基づいた構想と表現の工夫。 ・書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える力。	・用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 ・主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察	・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・観察	・毎時の準備片付け ・作品 ・プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) ・出席 ・観察

4 年間指導計画

		学習の内容	考査	時数
前期	4月	書体の変遷を理解する		15
	5月	・仮名 ・篆刻		
	6月	・篆書		15
	7月	・隸書 ・木簡		
	8月	・草書		
9月	くれき野祭に向けた作品制作(創作)	16		
後期	10月	漢字の書 創作		16
	11月	カレンダー制作		
	12月	漢字仮名交じりの書		16
	1月	漢字仮名交じりの書		
2・3月	書学習のまとめ			

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

- ・教科書及び学習プリントにより、実技を中心に授業をすすめ、各課題で作品を制作する。
- ・「書道Ⅰ」を履修・修得済みのこと。

6 教科書・副教材

教育出版『新編書道Ⅱ』

令和7年度 学習の手引き(シラバス)

科目名	音楽表現	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	3または4年次

1 科目の目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方、考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付ける

(2) 音楽を評価しながら、自ら味わって聴くことができるようにする

(3) 主体的に音楽の諸活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

2 科目の評価の観点と評価基準

	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
評価の観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性などについて理解を深めている。 創意工夫などを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱・器楽・創作などで表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを味わって聴いたりしている。	音や音楽、音楽文化と豊かに関わり主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・歌唱・演奏の聴き取り ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習状況の観察 ・ワークシートの記述 ・歌唱・演奏の聴き取り ・実技テスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・演奏練習の観察 ・ワークシートの記述 ・歌唱・演奏の聴き取り

4 年間指導計画

		学 習 の 内 容	考 査 範 囲	時 数 (予 定)
前 期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ・楽典、楽譜の仕組みについて(年間を通じて) 楽譜を見て歌唱・演奏することに慣れ、読譜力をつける ・器楽演奏(ギターアンサンブル) ・課題研究① 		16
	5月			
	6月	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏(ウクレレ弾き語り) ・課題研究② 		13
	7月			
	8月	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏(三線) ・課題研究③ 		16
後 期	9月			
	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏(キーボード) ・課題研究④ 		18
	11月			
	12月			
	1月	<ul style="list-style-type: none"> ・器楽演奏(ハンドベル) ・器楽演奏(ギター弾き語り) ・課題研究⑤ 		15
	2月			
	3月			

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

- ・授業で使用する資料・楽譜等は、その都度配布します。
- ・授業に出席し、主体的な音楽表現や授業態度を望みます。
- ・楽器や用具を大切に扱ってください。
- ・授業に対する取り組みの姿勢、表現力、課題の到達、理解度を総合的に判断します。

6 教科書・副教材

自主編成教材プリント等を使用する

科目名	実用書道	単位数	2単位
区分	選択	配当年次	3または4年次

1 科目の目標

<p>実用的な場面を想定し、日常生活に即した応用力を養う。</p> <p>①様々な書体に親しむとともに、硬筆書写の基本を身につけよう。</p> <p>②実用的な場面を想定した練習を重ねながら、用具の特性を知り、それぞれを使いこなして書けるようにしよう。</p>
--

2 評価の観点と評価基準

評価の観点	知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
	<ul style="list-style-type: none"> 書表現の方法や形式、多様性などについての理解。 書写能力の向上及び書の効果的な表現の技能。 	<ul style="list-style-type: none"> 書よさや美しさの感受。 意図に基づいた構想と表現の工夫。 書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉える力。 	<ul style="list-style-type: none"> 用具用材への関心及び丁寧な準備片付け。 主体的な書表現及び鑑賞の幅広い活動。
評価基準	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況	a:十分満足できる状況
	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況	b:おおむね満足できる状況
	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況	c:努力を要する状況

3 評価方法と評価の場面

知識・技能(知)	思考・判断・表現(思)	主体的に学習に取り組む態度(態)
<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 作品 プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) 観察 	<ul style="list-style-type: none"> 毎時の準備片付け 作品 プリント(ワークシート・制作草稿・自己評価・講評会シートなど) 出席 観察

4 年間指導計画

		学習の内容	考査	時数
前期	4月	硬筆の学習(鉛筆・ボールペン・マジックペン・筆ペン等の使い方)		16
	5月	平仮名の成り立ち理解と練習		
	6月	片仮名の成り立ち理解と練習		
	7月	漢字の間架結構の理解		
	8月	布置章法の理解		
	9月	実用的な場面を想定した練習		16
後期	10月	芳名簿や熨斗、手紙や宛名		18
	11月	各種書類		
	12月	年賀状や寒中見舞い		
	1月	賞状や奉書紙		
	2・3月	ホワイトボード		15

5 学習にあたってのアドバイスや注意事項

学習プリントにより、実技を中心に授業を進め、各課題で作品を制作する。

6 教科書・副教材

教科書なし 硬筆検定資料、教材プリントほか
